

自衛官候補生 奮闘記!



よなび

第625号
令和7年7月発行
電子版第82号

「地域と共に」



25km行軍



総合野営(天幕展張)



総合野営(歩哨訓練)



総合野営(掩体構築)

六月四日から六日までの間、自衛官候補生課程教育隊は、教育の最大の山場である総合訓練を日光演習場で実施した。
三日には、二十五キロ徒歩行進が行われた。雨の降る天候が安定しない中、雨と汗で濡れて



戦闘訓練(ほふく)



戦闘訓練(突撃)

領を学び、警戒方向に彼我不明の人影が現れるや簡潔明瞭に報告し、歩哨任務を遂行した。
五日には、野戦築城が行われ、各班が協力して小銃用掩体を構築し、自衛官候補生一同泥だらけになりながら小銃掩体を完成させた。
本訓練を通じて、同期の絆をさらに深めるとともに、自衛官候補生としてまた一つ成長した野営訓練になった。
その他にも自衛官候補生は、様々な訓練を実施しており、その訓練風景の写真を紹介する。



隊員に聞き取りする旅団長

五月二十六日、第八普通科連隊は、第十三旅団長(陸将補今村武)の自衛官候補生視察を受察した。
米子駐屯地に来隊された旅団長は、連隊長(一等陸佐 中尾圭介)以下の出迎えを受け、自衛官候補生の状況報告等を受けたのち米子訓練場において自衛官



班長・班付 展示説明



戦闘訓練

候補生の戦闘訓練を視察された。自衛官候補生はこの日、班長による展示・説明を真剣な表情で聞き、発進・停止・早駆けやほふく前進等の一連の戦闘動作を反復演練し習熟した。
旅団長は教育の現場を確認し、指導にあたる隊員に直接声をかけ、現場で困っている部隊に旅立った。

第十三旅団長 今村陸将補が視察



区隊長に報告



停止間の動作



停止間の動作



分隊教練

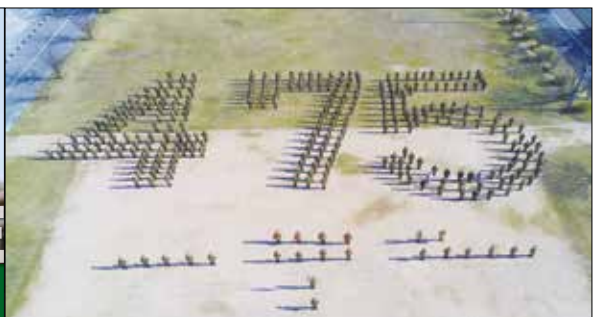
第八普通科連隊は、五月の中旬に米子駐屯地において自衛官候補生のご家族に対する訓練公開を実施した。
参加者は、駐屯地教場において概要説明を受けたのち、営庭に移動し基本教練練度判定の様子を見学した。着隊してから一ヶ月以上が経ち、教育も終盤に近づく中、入隊当初とは違う真剣な面持ちで訓練を受ける我が子を久しぶりに見て、遅く成長している姿に愛情のこもった温かい眼差しが送られた。
訓練公開により、ご家族の自衛隊に対する更なる理解と信頼を得ることができた。

自衛官候補生 家族に訓練公開

いま、その一歩を踏み出すとき

JAPAN PRIDE

自衛官募集 詳しくは自衛隊鳥取地方協力本部まで
TEL: 0857-23-2251 または 鳥取PCO 検索



理想の陸曹を目指せ!

～第一四七期陸曹候補生履修前教育～



総合訓練 (戦闘指導)



総合訓練 (攻撃)



障害走 (綱登り)



障害走 (ほふく)



総合訓練 (攻撃)



総合訓練 (攻撃)



徒歩行進訓練 (総合訓練)



総合訓練 (前衛分隊)

五月中旬から六月上旬の間、第八普通科連隊は第一四七期陸曹候補生履修前教育(共通)を実施した。本教育は、陸曹候補生課程(共通)の入校にあたり、初級陸曹としての必要な知識、技術等を事前に教育し、入校後の履修導入を容易にすることを目的に実施するものである。今回の教育では、他駐屯地の隊員も本教育に参加しており、履修前教育の参加隊員それぞれが目標を胸に積極的に教育に取り組んだ。

教育終盤の総合訓練においては、約四十kmの徒歩行進から攻撃行動を行う一連の行動で実施され、隊員は疲弊しながらも強い責任感を持ち、一丸となって攻撃目標を奪取した。

陸曹候補生は、七月からの陸曹課程教育に自信を持って入校し、今後も引き続き同期との絆を大切に、切磋琢磨してくれることを期待したい。



本部管理中隊 木原 瑞香

私は、五月十二日から六月六日までの四週間、第二四七期及び一〇七期陸曹候補生課程履修前教育に参加しました。

私が本教育で強く感じた事は、陸曹になるには「覚悟がいる」ということです。今までは陸士として陸曹の方の指示に従い、誰かの指揮下で動くことしかなく、その時の自分がどれだけ何も考えず行動していたか、身に染みて感じました。

本教育で、陸曹になる為の必要な知識や資質、分隊長として分隊員を動かす指揮能力を様々な形で学ぶことができました。また、小銃手としての戦闘行動も学びました。分隊長として分隊員に指示を出す責任感や、隊員一人一人の心情や、戦闘後の武器装具、健康状態の掌握など周囲への統制や気配り、本教育に参加していなかったら感じる事のない感情を味わうことができました。

教育期間、教官や助教の方々は分かりやすく丁寧に教えていただき、自分自身で考える時間も設けてくださいました。また、訓練中は、体力面で辛いときもありましたが、ともに同じ想いをしている仲間の声掛けや助けのおかげで最後まで諦めず訓練を乗り越える事ができました。きつと二人では乗り越える事が出来なかった壁も助教の方や仲間のおかげで乗り越える事が出来たので感謝しています。

履修前教育で学んだ知識や得た経験を忘れず、更にたくさんの方の知識を習得し、部隊に少しでも貢献できるように今後の女性自衛官教育隊に臨んでいきたいと思えます。まだまだ未熟なので、今以上に気を引き締めて、自分自身も成長させながら、仲間と助け合い、立派な三等陸曹になれるように頑張ります。



第2中隊 太田 菜津子

私は、五月十二日から六月六日まで実施された履修前教育に参加しました。まず、このような忙しい期間にも関わらず、四週間という貴重な期間をいただいた事、そして助教の方々にとても感謝しています。

この間、陸曹になるにあたって必要な知識を学びました。特に総合訓練の前衛分隊の訓練において、分隊長をさせていただいたことはとても勉強になりました。私は元々人前に立つて発言したり目立つことが苦手で、分隊長として皆を引っ張れる自信がありませんでした。実際に経験してみても、指揮をとることの難しさや楽しさ、敵対した時にどれくらい考えて動けるのかなどを知ることができました。

この経験を陸曹教育隊や中隊で活かしていける様に自分の中でしっかりと消化します。また、この履修前教育期間で戦闘体力が全く足りていないことをより痛感しました。空身での体力があつたとしても、戦闘では通用しないことを思い知る良いきっかけをもらえたと思います。中でも顕著に現れたのが、攻撃で突撃の際に遅れてしまい火力を発揮できなかったことと、障害走で満足できなかった結果を残せなかったことです。分隊長にならなないで、しっかりと戦闘体力もつけていかなければなりません。日々の体力練成に障害走やラックサックマーチを取り入れ体作りに励んでいきます。

今回の履修前教育で学んだことや経験を活かし、私が目指す「誰もががいてほしい」と思えるような陸曹になれるよう、日々精進します。



第十三偵察戦闘大隊 細木 瑞希

私はこの度、第一四七・一〇七期陸曹候補生課程履修前教育に参加させていただき、無事に終了できたことを大変うれしく思います。

今回の履修前教育では、初級陸曹としての必要な技能及び知識、小部隊の指揮官としての指揮能力など、様々なことを学ばせていただきました。また、普段部隊で行う訓練ではやることの無かった訓練等をさせていただいたので、普段とは違う刺激を得て精神面や体力面でも成長することができました。

履修前教育期間は、自分なりに目標を持って取り組みました。連隊長をはじめ、第二中隊長、最先任上級曹長に精神教育をしていただいた際に、陸曹とは何かについて深く考えました。その際、自分が立てた目標をさらに深め、教育がさらに充実したと感じています。

本教育期間、助教の方や同期に恵まれ、苦しい訓練も乗り越える事ができ、座学等では助教の方の丁寧な説明や教育によって課目への理解が深まり多くの学びを得ることができました。座学で得た知識を実際の戦闘動作の訓練の場で活かすことができたのも、助教の方々の指導や同期の助けがあつたことだとも感謝しています。

これから、第四陸曹教育隊へ約三ヶ月間入校しますが、本教育で得た知識及び技能を遺憾なく発揮して、これまでご指導いただいた様々な上司や先輩、切磋琢磨してきた同期、離れていながらも支えてくれた家族に恥じないよう、全力で頑張ります。

「陸曹とは何か」この言葉を胸に刻み、一日一日を大切に、さらなる成長のため精進していきます。最後に、履修前教育をするにあたり、助教の方々、同期には本当に感謝しています。ありがとうございました。

各中隊訓練

各中隊は、六七月の野営訓練に向け、いっしょにも増して技能・体力練成に精を出している。

本部管理中隊と第二中隊は徒歩行進訓練を実施し、小銃と背のうを背負い約四十二km行軍を実施して、徒歩行進能力の向上に努めた。また、第一中隊と第三中隊に関しては、日光演習場において戦闘訓練を実施し、奇襲、突発的な攻撃に対して、速



本部管理中隊 行進訓練



第2中隊 行進訓練



第1中隊 訓練風景



第3中隊 訓練風景

職場体験学習

米子駐屯地は、年間を通じて中学生、高校生を対象に職場体験学習や生活体験を定期的に行い、隊員の募集や地域との連携強化に努めている。六月中旬には米子松陰高等学校の生徒約一二〇名を対象として、米子駐屯地を訪れ職場体験学習を行い自衛隊の訓練を実際に経験してもらった。

体験内容は、プチレンジャー体験、銃剣道と会計職種体験を行った。また、七月上旬には鳥取県内の中学生を対象として、大山中学校、中山中学校、名和中学校、岸



銃剣道



会計職種体験



レンジャー体験 (モンキー渡り)



レンジャー体験 (セーラー渡り)

駐屯地」を具現化すべく年間を通して広報活動を行い、今後もさらに地域から信頼される駐屯地を目指しこれからも日々精進していく。

鳥取港福(こうふく)フェス

連隊は、五月三十一日に鳥取市にある鳥取港で実施された鳥取港重要港湾指定五〇周年記念「鳥取港福(こうふく)フェス」を支援した。

鳥取湾は、古くから交通の要衝として発展し、昭和五〇年に国の



高機動車体験試乗



装備品展示



装備品展示

重要港湾に指定され、今年五〇周年を迎えた。

自衛隊からは、第十三音楽隊のミニコンサートや海上自衛隊輸送艦(しもきた)の一般公開が行われた。連隊からは、高機動車の体験試乗や軽装甲自動車、1 1/2t救

急車など各種車両の装備品展示を行い、たくさんの方々に見学いただき、県東部にあまり馴染みの少ない自衛隊を広報し、本イベントを終了した。

連隊はこれからも様々なイベントを支援し自衛隊をアピールしていく。

鳥取県水防訓練

連隊は五月十八日、鳥取市の千代川河川敷で行われた「令和七年度鳥取水防訓練」に参加した。

本訓練には、鳥取市の災害派遣担当部隊である第二中隊が訓



警察と協力



土砂を取り除く隊員

練に参加した。

本訓練は、「梅雨や台風の接近により水害や土砂災害が発生した」という想定で行われ、車が土砂崩れに巻き込まれたという状況に対し、警察と協力して土



速やかな担架搬送

砂を取り除き、窓を割り要救助者に見立てた人形を救出し速やかに担架搬送を行った。

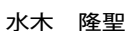
本訓練を通して、会場に集まった地域の方に災害発生時ににおける自衛隊の活動の一部を紹介して理解を深めることができた。

広報室勤務を経験して



私の広報室のイメージは、米子駐屯地の訓練の様子などを撮影し、写真を掲示板に掲示したり、外部のイベントなどに行き自衛隊を紹介したりするイメージがありました。しかし、実際は連隊の演習に同行し撮影を行ったり、SNSの投稿、動画作成、部外の方の対応をしたりと想像を超える忙しさでした。

広報室勤務での初日、仕事内容を教えていただいている最中に何度も電話対応をされていた



三カ月間広報室の

新年度に入り、五月のゴールデンウィーク明けから約三カ月間広報室に臨時勤務として配属していただきました。普段は第中隊の一員として、機関銃手として勤務しています。

私の広報のイメージは野営や演習等に参加している隊員の写真を撮り、駐屯地の宣伝をしていることなどでしたが実際にどのような業務をしているのかは特にはわかっていませんでした。しかし、配属されていざ勤務をしてみると、野営や演習の写真を撮るだけではなく、イベントへの参加、職場体験、駐屯地見学の案内などの他、新聞作成、各種記事の投稿など私が想像していたよりも多くの業務があることを知りました。

りと休む暇も無いほど忙しくな
れていました。

ことは、写真撮影です。私は最初、写真撮影をすることは誰にでもできるだろうと思つていました。しかし、実際に撮影してみると、シャッターを押すタイミングだったり、光の関係で上手に撮れなかったりと自分が思つていた写真が全く撮れず、写真撮影とはただ撮るだけではないことうございました。

た写真で揭示板を作成する際も見er人に興味をもつてもらえるように撮影から揭示板の構成をイメージしながら撮影・作成することが必要なんだと感じました。

今回私は主に新隊員教育の写真撮影を行いました。撮影をするなかで隊員の自然な姿を撮影するというのは難しいものですが、休憩中など直接新隊員と交流することで、カメラを意識していない隊

三月月というほかの隊員よりも長い期間臨時勤務をしたことで普段広報室がどんなことをしたり、どのような物を作成しているのかより深く分かったと感じました。広報室に配属され最初に行ったのは一中隊と三中隊がおこなっていた日光訓練野営です。野営には今まで分隊長としてしか行ったことがなく第三者として参加するのはこれが初めてでした。普段の訓練では自分がある分隊の行動しか知らずほかの対戦車小隊、迫小隊、他中隊が何をしているのか見ることとはなかったのですが広報として参加することで普段の訓練では見ることのできなかった視点で見ることができ大変勉強になりました。部外イベントや職場体験学習では持ち前の明るさやコミュニケーション能力を生かして積極的に一般の方に声かけをし、自分しかできない方法で米子駐屯地や陸上自衛隊のことをアピールすることが出来ました。広報室の先輩や室長、連隊の方など多くの方に労いや

お褒めの言葉をいただき大変やりがいを感じることができました。

三月月という広報室の臨時勤務の中では長い期間勤務をしたことで、普段広報がどのようなことをしているのか、連隊はどのように動いているのかを知ることのできる学びを得ることができました。また、普段かかわることのない連隊本部の方とも関わることで出来、充実した三月月となりました。中隊に戻っても広報室で学んだことを生かし中隊の力となっていきたいと思えます。



「広報 連隊本部」

新隊員訓練教習完了式



陸上自衛隊がいな万灯部は六月七日から八日に子供万灯の活性化を目的として米子がいな万灯振興会からの依頼を受け、米子駐屯地で行った。

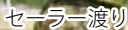
は短い竹竿を使用してバランス

米子がいな万灯は、秋田竿燈を参考に作られた、巨大なちようちんを飾りつけた竹竿を担いで街を練り歩き、米子がいな祭りの活性化と郷土芸能として、一九八六年から取り入れられている。本宿泊体験は、がいな万灯の感覚を競う競争を行い、子供たちも楽しみながら万灯を体験することができた。参加した子供からは「万灯を担げるようになった」「長く万灯を担て楽しかった。」「長く万灯を担げるようになった。」とたくさん

二日目の体験イベントでは、高機動車の体験試乗やセーラー渡り、クライミング体験など、普段なかなかできない貴重な体験が盛りだくさんで、子供たちはどれも興味津々ですべてのブースを楽しくに体験していた。

ちようちんの付いた竹竿を持ち、重さを体感してもらい、集中力とバランス感覚の大切さを感じてもらった。最初は重さとバラ

万灯宿泊体験を通して、米子市の伝統芸能を継承していくための意識を育むことに繋がるとともに、自衛隊



今回は米子駐屯地SNSをご紹介します！
米子駐屯地では、インスタグラムとフェイスブックをしています。
隊員が訓練をしているかっこいい姿や訓練姿以外にもまた違った一面を駐屯地SNSを通じて見ることができます。

駐屯地イベント情報もいち早く投稿しているのでぜひチェックしていただきご来場ください！

地域の皆様と一緒に歩む、私たちの日常をぜひご覧ください！皆様からのフォローといいね♡をお待ちしています！







YONAGO_JSSDF



第二十期陸曹中級課程教育
第四陸曹教育隊長賞
本管中隊
岡二曹

第六回中国・四国地域青少年銃
剣道大会

三中队 廣瀬士長

三軒屋駐屯地警備支援 褒賞状
本管中隊 山本土長
二中隊 平岡士長

永年の勤務ご苦労様でした。
業務隊 准陸尉 植田 成彦

今年も早いもので一年の半分が過ぎました。歳を重ねるにつれて時間の流れが速く感じます。これはジャーネーの法則という心理的な現象だそうで、ジャーネーの法則によると時間の過ぎる速さは年齢に比例して加速していくようです。一歳の時の一年間を基準とすると、五歳での一年間とは五倍早く感じ、十歳では十倍、三十歳では三十倍も早く感じるみたいです。

余暇の時間はのんびり過ごして心の休養を取ることでも、何でも大きなことですが、一日を何気なく過ごすよりも何かを予定を立てて過ごす方が有意義に生活を送れますね。

梅雨時期になり、雨の日が増えるとなかなか外でのレジャーや余暇活動などは出来ませんが、なるべく予定を立てて過ごしていきたいですね。

梅雨といえば雨が増え、ジメジメした気候でマイナスなイメージを受けますが皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか。

私の梅雨のイメージは、やはり雨の多いマイナスなイメージでしたが、ここ数年はその印象もプラスに変わる出来事がありました。

二年ほど前、丁度梅雨時期に私が釣りをしていた際にイサキが釣れたのですがそのイサキがとても美味しかった事がありました。イサキという魚は梅雨に旬を迎えるようので「梅雨イサキ」という呼び名で親しまれています。この時期のイサキは脂が乗っていてとても美味しく、食べる機会があればぜひとも刺身で食べていたのだと思います。

